

# Symbiotic society

## 障害 × 就労 × 共生社会

# 私たちの「働く」

今月号では「障害者雇用支援月間」に合わせ、「就労」の視点から障害がある人の活躍を紹介します。すべての人が活躍できる社会を、一緒に考えてみませんか？

問 障害者福祉課障害者支援担当

### 共生社会とは

障害が「ある」「ない」にかかわらず、地域の中で誰もが生き生きとした生活を送ることができ、社会に積極的に参加できる社会、これを「共生社会」といいます。厚生労働省の調査(※1)では、国民のおよそ7.4%が「心や体に何らかの障害を有している」とされています。「共生社会」を実現するためには、障害のある人に対する理解が必要不可欠です。

### 働きやすい環境づくり

共生社会を実現するため、の一つに「就労」があげられます。障害のある人がいきいきと働くためには、周囲の理解やサポートが必要です。平成28年4月には、障害のある人への合理的配慮などを盛り込んだ「障害者差別解消法」が施行されました。障害のある人が何らかの対応を必要としてい

る意思が伝えられたときに、可能な範囲で対応することが求められます。

### 「働きたい」皆さんへ

市内には障害のある人の働く場や、日中活動をするための施設などがあります。ご興味のある方は障害者福祉課へご連絡ください。

### 市内就労継続支援B型事業所<sup>※2</sup>

パン工房カウベル	鶴ヶ島ゆめの園
第2カウベル	ステップ
すまいるはうす	office HIRUGAO
かつちゃんの作業所	はまや鶴ヶ島作業所
こすもす作業所	



詳細はこちら

## 働きたい気持ちを支える

Interview

鶴ヶ島市障害者基幹相談支援センターでは、障害のある方の就職活動や就職後の仕事を継続するためのお手伝いをしています。面談を行ってご本人の仕事に対する希望や困りごとを聞き、目標に向けて一緒に考え、応募や面接のアドバイス、職場実習の提案や、就労先への訪問など、必要な支援を行

います。

仕事をしている上で大切にしていることは、「ご本人のペースで進めていく」ということです。仕事に対する目標や、必要な支援は、一人ひとり違います。話し合いながら、その人のペースに合わせて進めていくことを常に心がけて支援に当たっています。



鶴ヶ島市障害者基幹  
相談支援センター  
からさわ ともこ  
唐澤 智子さん

※1 「平成28年生活のしづらさなどに関する調査」

※2 障害などを理由に、雇用契約を結んで働くことが困難な方が就労訓練を行うサービス



1



2



3

1・2 サポートを受けながら、パソコン訓練をする永田さん 3 「office HIRUGAO」で永田さんとともに就職を目指す皆さんとサポーターの皆さん。後列右側が長澤さん

## 最後のチャンス。挑戦する覚悟

ながた  
永田さん

一般企業への就職を目標に、「office HIRUGAO」(脚折1497-23)で、ビジネスマナーやパソコンスキル習得に励んでいる永田さん。27歳で難病を発症しました。小脳が障害をうけることで、徐々に運動機能が低下する病気で、30歳で車椅子生活を余儀なくされ、その際に車を購入したことで働く意欲が湧き、就職を目指しました。永田さんは「年齢的に就職できる最後のチャンスだと思いました。大変だと思いますが、やらないで後悔するより、やって後悔した方がいいなと思って挑戦しました」と真剣なまなざしで、話してくれました。

**同じ目標を  
目指す仲間がいるから**

訓練は週5日。就職してから長く働き続けられるようになるためです。永田さんをサポートしている長澤美幸さんは「障害のある方にとって、毎日施設に通うことはとても大変なこと」と言います。身体的な理由だけではなく、精神的な負担も大きいそうです。「それでも永田さんは、どの訓練にも一生懸命に取り組んでくれています。周りの方ともお話しされていますし、急な面接練習やプレゼンテーションでも、動じることなくしっかりとこなすので、こちらが驚かされています。永田さんにその理由を聞くと「正直訓練に来るのが億劫なときもあります。でも同じ目標に向かって一緒に取り組んでいる仲間がいるので」と誇らしげに答えてくれました。

**「自立」が夢**

永田さんの今後の目標は「自立すること」。「そのためにも就職活動を頑張りたい」と力強く話したその姿勢にはゆるぎない覚悟が見てとれました。

# 鶴

ケ島ゆめの園(上新田256)で生産活動を通して、

その知識と能力の向上に必要な訓練をしている高橋さん。約3年前、すでにゆめの園に通っていた、友人の紹介で施設に通うことになりました。そこでは袋詰めや紙折り、箱作りなど、様々な作業をしています。知的機能に制約がありますが、テキパキと作業をしている姿からは、頼もしさを感じます。

## 丁寧に、正確に

「一人で黙々と作業することが好きです」と話す高橋さん。芸術肌で、26歳から書道を習い始め、5段を取得。また、自分の感性を手織りで表現する「さをり」が好きで、現在も東京にある教室に出向き、習っているそうです。手先が器用で「自分のセーターなども作っています」という高橋さん。その実力はこの施設でも発揮されています。

高橋さんをサポートしている支援員の江川真衣さんは「作業はとてども丁寧に、安心してなんでも任せられる、頼りがいのある利用者さんの一人です」と語りながら、高橋さんを優しく見守っていました。

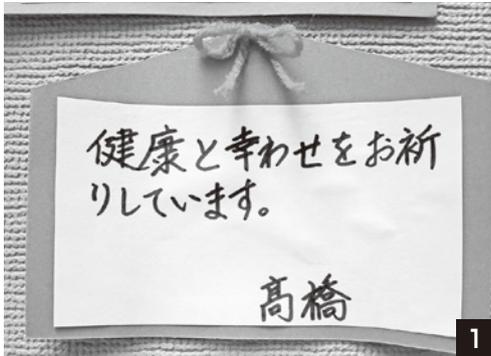
## 成長させてくれる場所

高橋さんは施設に入った当初、なかなかコミュニケーションが取れず、天気などの決まった話をするのが精一杯でした。その後、他の利用者と接し、様々な作業に携わることで、少しずつ話題が増えていきました。江川さんは「休憩中に他の利用者さんたちと楽しそうにテレビやアニメの話をしていきます」と言います。

「今後もここで働いていきたい」と胸を張る高橋さん。インタビュ어가終わると、いつものように他の利用者さんが高橋さんの周りに集まり、賑やかな会話が始まりました。

## 自分の武器を生かして

たかはし  
高橋さん



1 高橋さん直筆の今年の抱負 2 高橋さんが織ったセーター 3 ゆめの園で働く皆さん。手前右側が江川さん 4 黙々と作業をする高橋さん





1 タオルを整える井上さん 2 左から中井さん、井上さん、水田さん  
3 株式会社サンライズで働く皆さん  
4 打ち合わせの様子

## 働く喜び。理解者がいる心強さ

井上さん

**株**

株式会社サンライズ  
(三ツ木新町2-4-10)の工場の

製造ラインで働く、井上さんには、知的障害があります。山形県から引越越し、父親の紹介でこの仕事を始めました。井上さんの仕事はタオルをそろえ、それを袋に詰め、結束すること。就職して8年目を迎え「仕事が楽しい！定年までこの会社で働きたい」と語る姿からは、強い意志がうかがえます。

### 仕事に対する真面目な姿勢

「井上さんを特別扱いはしていません。気を使うというより『普通にみんなと一緒に仕事をやっている』そういう感覚ですね」と話すのは主任の水田弘文さん。「二度で覚えることはなかなかできないので、何度か同じ説明をすることはあります。でも一旦覚えると責任感を持って、最後まで仕事をしてくれれます。自分が忙しくてバタバタしているときは、手伝ってくれ、助かっ

ています」とその仕事ぶりを評価します。

井上さんに「仕事はどうですか」と聞くと、「納期に間に合うように頑張っています。タオルを結束する作業が楽しくて、今まで仕事を大変だと思ったことはないです」と嬉しそうに話してくれました。

### 会話から広がる人との絆

人と話すことが大好きな井上さん。「ドラマやテレビの話をするのが大好き」と笑顔で答えます。工場の人たちとよく話すため、誰よりも名前を覚えるのが早いそう。工場長の中井雅章さんは「新人の方など、まだこちらが覚えていない社員の名前も知っていて、驚かされます」と話します。

最後に取材への協力に感謝を伝えると、「またきてください！」と笑顔で声をかけてくれました。駆け足で仕事に戻る後ろ姿には誠実な井上さんの人柄がうかがえました。